

2021（令和3）年度事業報告書

（事業活動の状況の概要及びこれに関する数値のうち重要なものを記載した書類）

自 2021（令和 3）年4月 1日
至 2022（令和 4）年3月31日

公益社団法人 相模原・町田大学地域コンソーシアム

目次

1	事業業績の概要	p. 2
2	自己点検・評価結果	p. 4
	(1) 公益目的事業の評価	p. 4
	(2) 収益事業の評価	p. 6
	(3) 法人の管理運営	p. 7
3	公益目的事業の業績	p. 8
	(1) 教育学習事業：多彩な学びの場を市民に提供する事業	p. 8
	(2) 人材育成事業：まちづくりの担い手を育成する事業	p. 15
	(3) 地域発展事業：生活・文化・福祉・産業の発展に寄与する事業	p. 22
4	収益事業	p. 28
5	管理運営	p. 29

1 事業業績の概要

法人化後11年目を迎えた本法人は、2019年度から2021年度までの3か年間で「再構築による進化期」と位置付け、本法人の設立目的に立ち戻り、各事業の点検や見直しを行いながら、社会のニーズを先取りした事業が展開できるように、安定的な組織運営体制の整備に取り組んだ。2020年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響を受け、事業の中止・延期等、変更を余儀なくされた事業も多くあったが、2021年度は実施形態の多様化を図り工夫して事業の実施に努めた。また、相模原市立市民・大学交流センター（以下センター）の指定管理業務については、開館時間の短縮や利用定員数を減らすなどの対策をとったうえで感染拡大の状況をみながら事業を実施した。

教育学習事業では、「さがまちカレッジ」において、加盟機関の専門性を活かしながら、市民が快適で充実した生活を送るための講座41講座を実施した。コロナ禍に対応する生涯学習機会の創出に取り組み、対面講座の他、オンラインを使用して開催した。「相模原市・座間市 市民大学」においても対面とオンライン開催を併用して実施した。センターで開催した「オーサーズカフェ」は、19講座を実施（緊急事態宣言により5講座中止）し、平均30.4人、総数578人の市民がさまざまなジャンルのトピックを聴講した。教育学習系の事業については根強い人気と、安定的な満足度を収めている。

人材育成事業では、「さがまちインターンシップ」「さがまち学生 Club」「まこちゃん教室」とともに、オンラインを併用するなどコロナ禍に対応したプログラムを再構築し事業を実施した。結果としていずれも参加学生数は前年度を上回り、参加学生及び協力団体から高い満足度・評価を得ることが出来た。

地域発展事業では、「学生映像制作」においては番組制作として、7大学、16チームが参加し、映像制作の技術の向上とともに、地域に対する理解を深めることができた。CM・PR 動画制作については、行政等からの依頼を受けて「相模原市看護の心 CM」作品を制作し、いずれの作品も完成度が高いとの外部評価を受けている。「地域情報誌制作」では、学生の視点で企画から取材、執筆をする「情報誌さがまち」のWEB版を制作し地域の魅力を発信した。

会員については、35機関と昨年度と変わらず、賛助会員は新たに企業等2団体が入会し、計12機関、会員総数は47機関である。役員については、理事風間誠史が代表理事に就任し、役員の現員は理事7人、監事2人とした。

管理運営については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のみならず、国が進める働き方改革の観点からも、今後も可能な範囲でテレワークの導入を進める。

センターについては、第3期（平成31年度～令和3年度）指定管理者として、センターの目的である市民と大学の橋渡しや、研究機会の提供に従事した。神奈川県下に発出された緊急事態宣言に伴い、8月～9月の間、施設を休館した。一方、コロナ禍においても要員配置も含めた施設運営の改善と、WEB会議システムを活用するなど、実施方法の見直しを行うことで

可能な限りセンターのプログラムを実施することができた。さがみはら地域づくり大学の運営については、開始時期をずらし、一部の講座についてはWEB会議システムを利用して予定通りすべての講座を実施することが出来た。センターの職員については、指定管理業務を行う要員を中心に、逐次補充、配置を行った。

収支予算については、収入 113,430 千円（前年度比 97.5%）、支出 113,262 千円（前年度比 97.5%）を計上し、収支差額は 167 千円とした。

財政構造については、収入の 21.4%を受託事業費が占めており、その割合は、昨年度に比べ 0.5%であった。また、収入の 69.0%は指定管理料収入及び施設等利用料収入が占め、会費収入の割合は 4.9%（前年比 4.7%）であった。受託事業費が占める割合は概ね前年度同比であったが単年度の事業が多いため、引き続き会費収入及び、受託事業費収入の拡大を図ることで安定的な財源を確保し、健全な財政基盤の確立に努めていく。

2 自己点検・評価結果

公益目的事業について、事業計画において設定した目標値に対する達成状況や取組実績に対して自己点検と評価を行った。収益事業については、実績とその評価を付記し、法人の管理運営については、実績を付記した。

今回の評価結果は、2021（令和3）年度事業計画における目標値に対する評価である。なお、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から実施を中止した事業については、本法人の責めに帰すべき事由ではないため評価は記載しない。また、評価「C※」の記載については、同様の理由により規模を縮小して実施したことによる。

◇評価基準

- S：目標を超えて達成されている
- A：目標が達成されている
- B：目標がおおむね達成されている
- C：目標の達成が不十分である
- D：目標がほとんど達成されていない

(1) 公益目的事業の評価

ア 教育学習事業

プログラム名	事業計画における目標値	取組実績	評価
さがまちカレッジ	講座数：45 講座 受講者数：1,200 人 理解度・満足度：80%	講座数：企画 49 講座、実施 41 講座 受講者数：597 人 理解度：91.3%、満足度：94.5%	A
相模原市・座間市 市民大学	講座数：15 講座 受講者数：600 人 理解度・満足度：80%	講座数：18 講座 受講者数：323 人 理解度：81.4%、満足度：91.9%	A
センター・オーサ ーズカフェ	講座数：24 講座 参加者数：960 人 満足度：80%	講座数：19 講座 休館等により 5 講座中止 参加者数：578 人 満足度：100%	C※
センター・ユニコ ムセミナー	必要に応じて実施	講座数：1 講座 参加者数：56 人 満足度：100%	A

イ 人材育成事業

プログラム名	事業計画における目標値	取組実績	評価
キャリア支援 4 STEP PROGRAM	社会情勢に沿ったプログラムの再構築を検討	キャリア支援プログラムの再構築に向けて、大学・企業等へのヒヤリングを実施。	—
子ども社会体験推 進	子ども起業体験：1 回 参加児童数：30 人 満足度：80%	一律中止	—

さがまちインターンシップ	コロナ禍に対応したインターンプログラムの実施 参加学生満足度：80% アンケートの実施・分析	オンラインにも対応したインターンプログラムを実施 受入先数：12 団体 参加学生：54 名 学生満足度：96%	A
さがまち学生 Club	コロナ禍に対応した学生活動プログラムの実施 参加学生数：30 人 学生企画数：10 件 参加学生満足度：80% アンケートの実施・分析	オンラインをメインに学生活動を展開。 参加学生数：12 大学、34 人（企画参加学生数延べ 77 人） 企画数：20 企画 学生満足度：100%	A
町田市 まこちゃん教室	コロナ禍に対応した学習支援プログラムの実施 教室開催数：32 回 課外授業数：3 回 アンケートの実施・分析	オンラインにも対応した学習支援プログラムを実施。 教室開催数：32 回 課外授業数：4 回 受講生徒数：46 人 受講生満足度：92% 学習支援員：6 大学、30 人 学習支援員満足度：100%	A
センター・さがみはら地域づくり大学	講座数：15 講座 申込者数：40 人 理解度：80%	講座数：13 講座 申込者数：コース申込者 9 人（他に、講座単位の申込者延べ 89 人） 理解度：90%	B

ウ 地域発展事業

プログラム名	事業計画における目標値	取組実績	評価
学生映像制作	コロナ禍に対応した学生映像制作プログラムの実施 映像 参加チーム：12 チーム 作品数：12 本 CM・PR 参加チーム：8 チーム 作品数：3 本 さがまちバンバンアワードの実施	① 番組制作 参加チーム数：7 大学、16 チーム 作品数：16 作品 ② CM・PR 動画制作 参加チーム：5 チーム 作品数：5 本	A
地域情報誌制作	参加学生数：30 人 年間発行回数：1 回	参加学生数：12 大学 34 人 年間発行回数：オンライン上にて 1 回発行「さがまち vol. 27」	B
地域情報発信	HP アクセス数：40,000 件 更新数：80 件	HP アクセス数：44,000 件/年（対前年比 110%増） 更新数：78 件/年（対前年比 18%増）	B
センター・市民・大学協働フェスタ	まちづくりフェスタ：1 回 参加者数：2,000 人 参加団体数：50 団体 ユニコムサミット：1 回	①まちづくりフェスタ：1 回 講演会と 1 カ月間の展示会を開催 参加団体数：31 団体 ②ユニコムサミット：1 回 参加者数：29 人	C※

センター・市民・大学交流会	開催回数：6回 参加者数：120人	開催回数：4回 臨時休館により2回中止 参加者数：54人	C※
センター・市民と大学との橋渡し	利用者交流会：12回 相談件数：100件 連携実績件数：25件 満足度：80%	利用者交流会：12回開催 相談件数：138件 連携実績件数：36件 満足度：90%	S
センター・情報誌発行	月1回発行(3,000部) 理解度：80%	発行：12回/毎月 発行部数：2,500部 相模原市内の217か所に配布 理解度80%	A
センター・団体登録	登録団体数：40団体(対前年比133%増)	登録団体数：43団体	A
センター・ホームページ運営	HPアクセス数：300,000件	アクセス数：224,427件	C※

(2) 収益事業の評価

取組み	事業の主な内容	実績	評価
センターの施設等の管理運営事業(収益事業)	この事業は、一般市民などがセンターの施設等を利用するにあたり、相模原市条例に定める適正な料金のもとに次のサービスを提供し、利用者の便宜を図る。もって公益目的事業の推進への寄与を目指す。 ①シェアードオフィス運営支援(NPOや企業などが市民活動、地域貢献活動の拠点として利用するシェアードオフィス(共用貸事務所)の利用者有料支援) ②会議室等の貸し出し(セミナールーム、ミーティングルーム、AVスタジオ、実習室、情報コーナー、マルチスペースの有料貸し出し) ③備品等の貸し出し(機械、映像機材、各種ソフト、備品の有料貸し出し) ④利用者サービス(コピーサービス(有料)、無線LAN(Wifi-Spot)(無料))	①シェアードオフィス利用者運営支援 利用者数：11団体・個人(令和4年3月31日現在) ②会議室等の貸し出し 一般利用者数：64,502人 利用率：57.2% ③備品等の貸し出し ④利用者サービス コピー機：2台設置(有料) 無線LAN設置(無料)	C※

(3) 法人の管理運営

内容	計画	実績
役員等の体制の整備	1. 役員体制の整備	1. 補充の理事1人の選任(6月)と代表理事の交代に伴う新たな代表理事の選定(6月)
指定管理施設運営体制の整備	1. 円滑な施設管理運営 2. 管理事務室職員の採用	1. 相模原市への定例報告(毎月1回) 2. 嘱託職員の退職により1人を採用 次期管理責任者候補を募集中 3. 臨時職員2人を採用
事務局体制の整備	1. 教育・研修の実施	1. 全員に対する接遇研修及び防災訓練の実施(2回)
情報公開の促進	1. 法令の遵守 2. 透明性の確保 3. 会員等の利便性の向上	1. 法定事項を公表 2. 議事抄録等を公開 3. 全規程を公開

3 公益目的事業の業績

魅力あふれる地域社会の創造への寄与を目的とする、教育学習事業、人材育成事業、地域発展事業

(1) 教育学習事業

ア さがまちカレッジ

加盟機関の専門性を活かしながら、暮らしに役立つ知識や社会的な課題の解決に向けた身近な話題をテーマに講座を開講した。

実 績	
期 間	通年（Ⅰ期、Ⅱ期、Ⅲ期、Ⅳ期、こども体験講座）
講 座 数	41プログラム49講座（前年度からの延期3講座を含む） 内、新型コロナウイルス感染症の影響等による中止7プログラム8講座
定 員 数 等	定員数：1,042人 申込者数：1,281人 受講決定者：793人 受講者数：597人
内 容	「快適で充実した生活を送るための学び」をコンセプトに、暮らしに役立つ話題や生活を豊かにする情報、知的好奇心を満たす学術的知識、社会的な課題解決など様々な切り口で各大学等において講座を企画した。新型コロナウイルス感染症の影響で実施判断の難しい局面もあったが、2020年度から延期した講座を含め安全面に注意した講座運営を行い33プログラム41講座を開催した。開催数の内14講座はオンライン形式で開催した。また17講座は、町田市生涯学習センターとの協働の下、同センターを会場として開催した。また、8月に町田市・多摩市・稲城市子ども体験塾実行委員会からの委託を受け、3市の小・中学生を対象に将来の夢や目標について具体的に考えるきっかけとするためのプログラム、多摩・島しょ広域連携活動助成金事業「夏休み子ども体験塾『なりたいシゴトを体験しよう！』」を5コース8講座実施した。
自 己 評 価	新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、昨年度から始めたオンライン講座「さがまちwebカレッジ」を積極的に企画した。内容、開催方法ともに多様な講座の提供をすることができた。また、今年度初めて委託を受けた「夏休み子ども体験塾『なりたいシゴトを体験しよう！』」では、108人の定員に対し1,161人の申し込みがあり盛況であった。受講者、委託者ともに高評価を得ることができた。中止をせざるを得なかった講座もあり受講者数は目標に達しなかったが、受講者の理解度、満足度は目標を大きく超えたため、「A」と評価する。
課題と改善策	・地域の生涯学習の場として、より多様な地域市民に関心を持たれるようにするため、受講者のアウトカム評価や関心を分析し、講座を拡充する。 ・小学生を中心に「こども」を対象とした体験講座の充実を図る。
会 議 等	さがまちカレッジプロジェクト会議 開催日：2021年4月23日、7月19日、10月19日、2022年2月15日

収 支	受講料収入に加え、会費収入の一部を充当		
実施の様子			

1) 開催講座実績

	講座名	開催日	提供団体	受講者数
1	美ってなんだろう？－美学の世界へご招待－	5月1日 (2021年3月から日程変更)	女子美術大学	19人
2	パーソナル・ミニドキュメンタリー映画をつくろう ～身近な“あの人”の声なき声に、カメラで耳を澄ます～	5月8・22日 (2021年2月から日程変更)	東京造形大学	6人
3	藍の抜染技法を使ってトートバッグを作りましょう※	6月27日	女子美術大学	11人
4	くすりの玉手箱～漢方薬のひみつ～（午前コース）※	7月23日	北里大学	20人
5	くすりの玉手箱～漢方薬のひみつ～（午後コース）※	7月23日	北里大学	19人
6	【学生講師プログラム】 黒板に絵をかいてみよう～黒板アートワークショップ～（午前コース）	7月24日	東京造形大学	5人
7	【学生講師プログラム】 黒板に絵をかいてみよう～黒板アートワークショップ～（午後コース）	7月24日	東京造形大学	5人
8	アンデスのキャラクターをエコバッグにマシン刺繍してみよう！※	7月31日	女子美術大学	11人
9	親子で遊ぼう！バルーンバッグパイプでリズム遊び※	8月2日	東京造形大学	23人
10	味覚のふしぎ～5つの味のちがいを体験しよう～	中止	東京家政学院大学	(32人)
11	カラフルペーパーで作ろう！ゆらゆら動く飛行機のモビール※	8月4日	女子美術大学	9人
12	【さがまちwebカレッジ】 自分の絵を動かしてみよう！－キャラクターデザイン&GIFアニメーション教室－	8月5・6・10日	女子美術大学	10人
13	自然や絵画の中のカタチでフロッタージュ創作！（午前コース）	中止	女子美術大学	(12人)
14	自然や絵画の中のカタチでフロッタージュ創作！（午後コース）	中止	女子美術大学	(12人)
15	【学生講師プログラム】 楽しく環境を学ぼう in 鶴見川－川で学ぶ身近な自然－	中止	和光大学	(20人)

16	絵のなかのどうぶつたちが教えてくれる絵心ー色やかたちの自由さと“どうぶつらしさ”ー	8月20日	女子美術大学	22人
17	【さがまちwebカレッジ】 みんないっしょにプログラミング スクラッチコース	8月21日	青山学院大学	32人
18	【さがまちwebカレッジ】 みんないっしょにプログラミング ピクトグラミングコース	8月21日	青山学院大学	16人
19	Kids English in SALESIO	中止	サレジオ工業高等専門学校	-
20	中学生のための初級薬学講座 ～薬の秘密を確かめよう～	中止	相模原市薬剤師会	-
21	実験で体験しよう！～混ぜると光る化学の不思議～	中止	昭和薬科大学	(12人)
22	【さがまちwebカレッジ】 AI・機械学習を学ぶ～そもそもAIとは？ビジネスにどう活かす？～	7月16日	青山学院大学	15人
23	北里柴三郎の業績ー見えざる敵、伝染病との戦いー	7月21日	北里大学	8人
24	作品鑑賞を楽しみましょうー自分らしく絵の世界を味わうためにー※	7月25日・8月1日 (2021年2月から日程変更)	女子美術大学	10人
25	【さがまちwebカレッジ】 養蚕村から政令市へー相模原の近現代ー	8月27日	桜美林大学	7人
26	デッサンから学ぶ日本画※	8月28・29日 (2021年5月から日程変更)	女子美術大学	5人
27	写真という画像の不思議な魅力にせまる！～ピンホール・カメラ作りを通して	9月12日	女子美術大学	8人
28	【さがまちwebカレッジ】 はじめてのZoom～楽しく使ってみよう！！～	9月24日	和光大学	19人
29	【さがまちwebカレッジ】 バランスよく食べて健康づくり～自分の食事の適量とは？ 日頃の食事をチェックしてみませんか？～	中止	相模女子大学	-
30	黄金比ってなあに？ーかたちの美しさと数の比のお話とレッスン	10月17日	女子美術大学	12人
31	【さがまちwebカレッジ】 薬学の視点から考える身近な健康のお話ー乳がんの薬物治療における薬剤師の役割ー	中止	昭和薬科大学	-

32	【さがまち web カレッジ】 ホモ・サピエンスは現代テクノロジーで終わるのか？－哲学の観点から問い直す－	10月21日・11月18日	玉川大学	6人
33	【さがまち web カレッジ】 相続を争族にしないための基礎講座 ～民法改正を踏まえて～	10月26日	桜美林大学	13人
34	薬学の視点から考える身近な健康のお話－身体の画像診断法－※	11月25日	昭和薬科大学	16人
35	気を巡らせて“ぼかぼかな体”づくりを目指しましょう！4 ～“経路”を整えて免疫力を高めよう～※	12月9日・17日	相模女子大学	34人
36	【相模原市発達障害支援センター共催】 【さがまち web カレッジ】 インクルーシブセミナーいくつでも、誰でも、共に学び楽しもう！～若者も、高齢の人も、障害のある人も～①学んでみよう！心理学	10月2日	相模原市	24人
37	【相模原市発達障害支援センター共催】 【さがまち web カレッジ】 インクルーシブセミナーいくつでも、誰でも、共に学び楽しもう！～若者も、高齢の人も、障害のある人も～②学んでみよう！経済学	11月6日	相模原市	21人
38	【相模原市発達障害支援センター共催】 【さがまち web カレッジ】 インクルーシブセミナーいくつでも、誰でも、共に学び楽しもう！～若者も、高齢の人も、障害のある人も～③学んでみよう！哲学	11月27日	相模原市	28人
39	カラフルなコラージュペーパーで作ろう！かわいいクリスマスツリー※	12月18日	女子美術大学	24人
40	【学生講師プログラム】 熱の力で動く「くるくるイルミネーション」をつくろう！（午前コース）※	12月18日	東京造形大学	6人
41	【学生講師プログラム】 熱の力で動く「くるくるイルミネーション」をつくろう！（午後コース）※	12月18日	東京造形大学	6人
42	【さがまち web カレッジ】 保育における遊びと援助～子どもにとっての「遊び」って何だろう？～	1月8日	和泉短期大学	14人
43	日本画の古典技法を学ぶ－絹に描いてみましょう※	2月9・10日	女子美術大学	9人
44	ニューロフィードバック入門～脳波をトレーニングしてメンタルヘルス向上～※	2月19・27日・3月5日	多摩大学	16人
45	パーソナル・ミニドキュメンタリー映画をつくろう ～身近な“あの人”に、カメラで耳を澄ます～※	2月20日・3月6・13日	東京造形大学	5人

46	アートの心理学ーアート作品を通して見るこころのメカニズムー	3月5日	女子美術大学	32人
47	【さがまち web カレッジ特別講座】 薬・健康市民講座 コロナ禍そしてコロナ後楽しく充実した人生をおくるための生活習慣とは!!～相模原市薬剤師会講師陣が自信をもってお伝えします～	3月6日	相模原市薬剤師会	18人
48	デッサンから学ぶ日本画※	3月19・20日	女子美術大学	12人
49	【相模原市発達障害支援センター共催】 【さがまち web カレッジ】 インクルーシブセミナーいくつでも、誰でも、共に学び楽しもう!～若者も、高齢の人も、障害のある人も～④特別編私たちが考える!みんなが学びたいと思える大学とは?	2月12日	相模原市	21人

・※町田市生涯学習センターとの連携講座

・(人)は受講決定者数

イ 市民大学（相模原市及び座間市教育委員会委託事業）

高等教育機関の機能を活用し、社会が抱える諸課題と市民の学習ニーズに基づく入門的・継続的な学習機会を提供した。

実 績	
期 間	通年（前期、後期）
講 座 数	13 コース、18 講座
定 員 数 等	定員数：815人 申込者数：354人 受講者数：323人
内 容	新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、Zoom を使用したオンライン講座と学校等を会場とする対面講座、さらにはオンラインと対面を併用したハイブリッド型講座の3形態で実施した。
自 己 評 価	新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、従来の対面形式の講座に加えて、前年度より実施検討を委託者で行っていたオンライン形式の講座を開設した。オンライン講座の開設にあたり、講師・学校、受講者双方が安心して講義し、受講できるような講座運営を行った。初めてのオンライン講座ということもあり、受講者数は講座平均 43%にとどまったが、受講者の市民大学に対する満足の評価が約 95%と非常に高い評価をいただいたので、「A」と評価する。
課題と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・受講者ならびに主催者の満足度を維持するため、主催者、受講者双方の意見を参考にして、より円滑な運営を行う。 ・3形態の講座の実施（対面、オンライン、併用）について、円滑な運営に努める。 ・各校の特色を生かした良質の講座をより多くの地域市民に知らしめるために、本会 HP や広報物を活用し、引き続き受講者の拡大に努める。
会 議 等	連絡会議

	開催日 2021年5月17日 書面による実施 2022年2月9日
収 支	市民大学委託事業費の全額を充当
実施の様子	  

企画講座実績

	講座名	主催校
1	近代日本のはやり歌を知る III～はやり歌に見る近代化への風刺と受容 ※1	相模女子大学
2	臨床検査って何？	麻布大学
3	野生動物と共に生きる ※2	麻布大学
4	自分の感覚を信頼する	和泉短期大学
5	女子美術大学美術館コレクションを知る ※1	女子美術大学
6	健康で豊かな人生のための基礎知識 ※1	北里大学
7	暮らしに役立つ医療の知識 ※1	北里大学
8	介護に関する暮らしの知恵 ※1	医療ビジネス観光福祉専門学校 コース
9	高齢期の健康と生活の質を考える ※1	桜美林大学
10	サイエンスとテクノロジーにおけるセンシングとシンセシス ※1	青山学院大学
11	共生と社会的課題 ※1	青山学院大学
12	地球規模の危機について考える：コロナ禍・温暖化を経て ※1	青山学院大学
13	「コミュニティ」を考える ※1	青山学院大学
14	名画で読む聖書 ―西洋美術の精神をさぐる ※1	多摩美術大学
15	いまどきの教科書 ※1	東京家政学院大学
16	労働運動と社会運動の接点をみる：労働組合は公害反対運動とどのような関係をもったか ※1	法政大学
17	Active English in the News (中級) ※1	サレジオ工業高等専門学校
18	まなざしが語り、耳が考える：感覚と思考の世界史 ※1	和光大学

※1 オンライン講座 ※2 ハイブリッド型講座

ウ オーサーズカフェ (指定管理事業)

さまざまなジャンルから話題性の高いトピックを取り上げてトーク形式で解説する参加自由なカフェ形式のセミナーを提供した。

実 績	
期 間	通年 (隔週土曜日 14:00~15:00)
講 座 数	19 講座 (5 講座は再度企画したがコロナ禍による臨時休館等により中止)
定 員 数 等	定員数: 定員数は特に設けていない 参加者数: 578 人、平均参加者数: 30.4 人 (コロナ禍前とほぼ同じ)
内 容	健康、歴史、文学、芸術、自然科学、環境など、多彩なテーマについて第一線で活躍している大学教授や各界の専門家による講座を開講した。
自 己 評 価	ユニコムプラザさがみはらの特徴的なにぎわいの空間として市民に認知されており、学びのきっかけづくり、市民と大学との接点の場となっている。再度の閉館により、講座数、参加者数は目標以下となったので「C※」と評価する。
課題と改善策	ロビーでの密集を避け、検温、換気などの感染防止対策を行う。
収 支	指定管理者事業収益の一部を充当
実施の様子	

	講座名	開催日	参加者数
1	芸術を通じた社会貢献度事業について	4月10日	20人
2	理科で遊ぼう会から子ども達への贈り物	4月24日	11人
3	家庭園芸で心と体の環境保全を!	5月8日	24人
4	ことばと心を育てるオノマトペ	5月22日	21人
5	草ストローで社会問題解決へ	6月12日	14人
6	パズルを使って相模原を遊びながら学んでみる	6月26日	17人
7	「孤独」と健康～心から健康でいるために～	7月10日	47人
8	毎日の生活が広がる・つながる・ワクワクする!	7月24日	19人
9	光の感動! キャンパスから街へ飛び出す	8月14日	中止
10	手のひらから見る あなたの健康	8月28日	中止
11	戦後相模原の都市化と産業・経済	9月11日	中止
12	本当は面白いシェイクスピア	9月25日	中止
13	外国人の雇用問題を考える	10月9日	中止
14	体験してみませんか? 音楽を使ったマインドフルネス	10月23日	40人
15	未来に繋がる アップサイクルアート&デザイン	11月13日	17人
16	人気マンガでマンガ学	11月27日	13人

17	手のひらから見る あなたの健康	12月11日	59人
18	名探偵が明かす ベートーヴェン《第九》のヒミツ	12月25日	40人
19	飛行ロボットの活躍の現状と未来	1月8日	24人
20	マクドナルド一号店 元店長が語る 銀座店誕生秘話	1月22日	65人
21	戦後相模原の都市化と産業・経済	2月12日	36人
22	「早生まれの不利」はなぜ大人まで続くのか	2月26日	40人
23	桜のはなし	3月12日	37人
24	森林と人間の健康は比例する	3月26日	26人

エ ユニコムセミナー（指定管理事業）

大学の活動状況や研究成果を分かりやすく紹介し、市民と大学の連携のきっかけ作りを提供した。

実績	
開催期間	2022年2月
開催数	1講座（オンライン）
参加者数	56人
内容	日常の暮らしに役立つ実践的な研究や、地域課題解決の糸口につながる専門的な話題をテーマとし、セミナー形式で解説した。
自己評価	事業計画にはなかったが、多くの参加者が見込まれるテーマと講師であったため急遽開催した。好評であったため「A」と評価する。
課題と改善策	特になし。
収支	指定管理者事業収益の一部を充当
実施の様子	

	開催日	講座名	参加者数（申込）
1	2月27日（日）	学校教育で「自律の力」を身につける	56人（60人）

（2）人材育成事業

ア キャリア支援 4 STEP PROGRAM

これからの就職活動を迎える学生を対象に相模原市・町田市の魅力ある様々な企業との出会いの場を創出し、より明確なキャリア意識を身に着けるためのきっかけ作りとなることを目的とした取組み。

実績	
期間	2021年4月～2022年3月

内 容	2020 年度はキャリア支援プログラムの再構築期間と位置づけ、新型コロナウイルス感染拡大の影響により日々変化するキャリア支援の動向について関連する大学・企業の担当者へのヒヤリングを随時実施した。
自 己 評 価	－
課題と改善策	次年度も学生・大学・地域企業のニーズ検討を行い、より時代のニーズに合ったプログラムへ企画内容を再構築する。
会 議 等	－
収 支	会費収入の一部を充当

イ 子ども社会体験推進

地域の小学生が「会社設立、事業計画書の作成、資金調達、仕入、製造、販売、決算」という起業プロセスを疑似体験するプログラム「さがみはら子どもアントレ」に実行委員会の一員として参画。

実 績	
期 間	通年
内 容	2021 年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、プログラムは一律中止となった。
自 己 評 価	－
課題と改善策	次年度も実行委員として参画し、子供の社会体験に寄与していく。
会 議 等	－
収 支	会費収入の一部を充当

ウ さがまちインターンシップ

学生のキャリア形成の支援として、地域産業への理解を深める、地域の特色ある企業や公共活動に取り組むNPO等の活動を知る事などを目的としたインターンシッププログラムの取り組み。

実 績	
期 間	2021 年 6 月～2022 年 3 月
受 入 先 数	12 団体
参 加 者 数	延べ 54 人
参 加 大 学	青山学院大学、桜美林大学、北里大学、相模女子大学、女子美術大学、玉川大学、多摩大学、東京家政学院大学、法政大学、和光大学
内 容	地域の特色ある企業や公共活動に取り組むNPO等と大学を結ぶ「マッチングステージ」として各インターンシッププログラムを展開。2021 年度はコロナ禍に対応し、実習定員の削減や実習期間のコンパクト化、オンラインミーティングの導入などプログラムの再構築を図り事業を推進した。
自 己 評 価	受入れ先である地域団体の協力を得ながらコロナ禍に対応したプログラムを再構築し、結果として参加者数として前年度に比べ約 3 倍ほどの地域学生がインターンシップに参画した。参加学生及び受入団体からの評価も高かったので「A」と評価する。

課題と改善策	次年度もコロナ禍の状況に合わせながら、学生・大学・地域団体のニーズに沿ったインターンシッププログラムを推進する。
収 支	会費収入の一部を充当

受入予定先別実施状況

	受入先	期間	内容
1	SC 相模原	8～9月	チラシ作りやホームゲーム当日の試合運営補助など、プロサッカーチームにおけるスポーツマネジメント業務を体験
2	さがみはら産業創造センター	8～9月	センター主催の就職支援サービスの企画・運営業務を体験
3	町田市生涯学習センター	8～9月	センター主催の生涯学習系イベントの運営補助やその他広報業務の体験、及びセンターに対する企画プレゼンテーションを実施
4	町田市地域活動サポートオフィス	8～9月	市民協働フェスティバル「まちカフェ！」の運営サポート業務やその他市民活動団体向けセミナー等の当日運営サポート業務を体験
5	株式会社イノウエ	2～3月	マーケティングリサーチ、広報、デザイン、商品企画立案業務などを体験
6	FMさがみ	2～3月	コミュニティーFM局「エフエムさがみ」の協力の下、学生独自のラジオ番組制作やアナウンス業務等を体験
7	株式会社オギノパン	2～3月	販売・製造・事務、商品企画立案業務などを体験
8	相模大野図書館	2～3月	貸出・レファレンス等の図書館司書業務の体験、及び図書館に対する企画のプレゼンテーションを実施
9	町田市ひなた村	2～3月	子どもを対象とした屋外イベントや学習イベントの企画運営補助業務を体験
10	町田新産業創造センター	2～3月	センター主催のビジネスイベントの企画・運営補助や、その他広報業務などを体験
11	町田市文化・国際交流財団	2～3月	日本語教室やスポーツ大会等の文化事業の運営補助業務を体験
12	ユニコムプラザさがみはら	2～3月	主催イベント「さがみはら地域づくり大学」「市民大学交流会」「ユニコムセミナー」の企画・運営サポート業務を体験

エ さがまち学生Club

相模原・町田地域の活性化を目的とした学生によるまちづくりの取組み。主な内容は、地域活性化をテーマとした学生企画の実施、まちおこしイベントへの参画、ボランティア活動、情報取材活動・情報発信活動など多岐にわたる。

実 績	
期 間	2021年6月～2022年3月

取組企画数	20件
参加者数	加盟大学の学生及び相模原・町田市在住の学生33人（企画参加学生数延べ159人）
参加大学	青山学院大学、桜美林大学、北里大学、相模女子大学、女子美術大学、女子美術大学、多摩大学、東京家政学院大学、日本女子大学、目白大学、明治学院大学
内容	まちづくりへの関わりを通じて青年の社会適応力の育成を目的とする。クラブに所属する学生の自主性のもと、2021年度はオンラインを活動のメインとし、様々な相模原市、町田市の地域団体と連携し、20件のまちづくり企画を実施した。
自己評価	コロナ禍においてもオンライン会議などを駆使し、今だからこそできる学生によるまちづくり活動を推進することができた。また昨年度に引き続き今年度も独自の取組みにより、各種新聞・メディアにも取り上げられるなど、地域からの注目度は年々高まった。参加学生及び協働団体からの評価も高かったため「A」と評価する。
課題と改善策	コロナ禍における学生組織体制及び付随するディレクション業務の効率化を図る。
収支	会費収入の一部を充当
実施の様子	  

活動の実績

	内容	実施月	参加者	依頼元
1	WEB版情報誌さがまの制作	6月～3月	(学生) 6名	自主プログラム
2	芹が谷公園活性化プロジェクト	6月～11月	(学生) 8名	町田市文化振興課
3	学生記者プロジェクト	6～3月	(学生) 16人	東京新聞 タウンニュース
4	着物再生プロジェクト ロゴの共同制作	6～10月	(学生) 4人	キモノワールドライフ
5	イベント学生天国への参画	6～10月	(学生) 8人	大学コンソーシアム八王子
6	町田市移動図書館PR動画の制作	6～10月	(学生) 6人	町田市中央図書館
7	学生交流会「学生マルシェ」開催	11～3月	(学生) 8人	町田市生涯学習センター
8	FMさがみ特別出演	12月	(学生) 4人	相模原商工会議所
9	町田市「ガクマチ EXPO」への参画	11～3月	(学生) 6人	町田市生涯学習センター

10	まこちゃん教室夢ワークショップの開催	11～3月	(学生) 8人	町田市子ども家庭支援センター
11	ClubによるSDGs普及啓発企画の実施	11～3月	(学生) 33人	相模原市企画政策課
12	成人年齢引き下げに伴うトラブル防止普及記事制作	11～3月	(学生) 5人	相模原市消費総合生活センター
13	相模原市立北の丘センターPR動画の制作	11～3月	(学生) 8人	相模原市立北の丘センター
14	相模大野周辺まちづくりワークショップ 学生委員として参画	通年	(学生) 1人	相模原市観光・シティプロモーション課
15	淵野辺駅周辺まちづくり検討委員会 学生委員として参画	通年	(学生) 1人	相模原市観光・シティプロモーション課
16	相模原お店大賞実行委員会 学生委員として参画	通年	(学生) 1人	相模原市相模原駅周辺まちづくり課
17	センター評議会 学生委員として参画	通年	(学生) 1人	町田市生涯学習センター
18	町田市子ども子育て会議 学生委員として参画	通年	(学生) 1人	町田市子ども総務課
19	相模原お店大賞公式アンバサダー	通年	(学生) 1人	相模原お店大賞実行委員会
20	公式WEBサイト・フェイスブック・ツイッター・YouTube・noteの制作、公開	通年	(学生) 33人	自主プログラム

オ 町田市まこちゃん教室 (町田市委託事業)

町田市内のひとり親家庭等の子どもとその保護者を対象とし、日々の学習支援や課外活動・ワークショップを通し、子どもの基礎学力の定着や社会性を伸ばす無料学習塾を運営。

実績	
期 間	2021年7月～2022年3月
教室回数	(集合型) 2021年7月～翌3月まで毎週火曜日実施 計32回 (リモート型) 生徒・学習支援員の都合により毎週実施 計32回
開催場所	町田市健康福祉会館、生徒自宅、オンライン など
参加者数	受講生徒：小学4年～中学2年生46人(集合型：34人 リモート型：12人) 学習支援員：30人(青山学院大学、桜美林大学、相模女子大学、女子美術大学、法政大学、和光大学)
内 容	町田市内のひとり親家庭等の子どもとその保護者を対象とし、日々の学習支援や課外活動・ワークショップを通し、子どもの基礎学力の定着や社会性を伸ばすことを目的とする。2021年度も対面とリモートを組み合わせながら7月から毎週火曜日に学習・生活支援教室を展開した。
自己評価	当法人として3年目の事業であったが、コロナ禍の中、感染予防対策を徹底し事業にあたり、年間を通して大きなトラブルもなく、生徒・保護者・学習支援員から高い運営評価を得ることが出来た。最終アンケート結果項目の満足度も高かったため、「A」と評価する。

課題と改善策	蓄積した教室運営ノウハウやアンケート結果等をまとめ、考察し、次年度の運営計画に活かす。
課外プログラム	年に4回の課外プログラムを企画・実施 10月：芹が谷公園冒険あそび場ワークショップ（協力：冒険あそび場） 11月：探求学習ディスカバ！（協力：桜美林大学） 1月：芸術ワークショップ（協力：東京造形大学学生有志グループ） 3月：夢ワークショップ（協力：さがまち学生Club）
収 支	まこちゃん教室委託事業費の全額を充当
実施の様子	

カ さがみはら地域づくり大学（指定管理事業）

協働の観点での地域活動及び市民活動を促進するために必要な知識や技術を体系的に学習する講座を開講した。

実 績	
期 間	通年
講 座 数	基礎コース5講座（必修3、選択2）、応用コース5講座（必修3、選択2）、専門講座3講座、計13講座 ※上記の他に、開講記念学長講演1講座、公開プレ講座2講座、特別公開講座1講座の開催を予定。
定 員 数 等	定員数：各コース・専門講座 20人、学長講演・公開プレ講座・特別公開講座 各100人 申込者数(受講予定者)：89人（オブザーバー含む延べ人数）
内 容	新型コロナウイルス感染拡大の影響と臨時休館により、例年6月スタートの各コースと専門講座は9月スタートに変更して開講した。 コーディネーターズサークル交流会を3回開催した。 下記の開催を中止した。 ・4月 開講記念学長講演・受講者証交付式
自 己 評 価	申込者数がコース定員に達しない状況に加え、コロナ禍により参加者の獲得に苦労したが、理解度については目標値に達したので「B」と評価する。
課題と改善策	より魅力ある講座にすべく、ニーズ調査に基づくターゲット別の内容に変更。また、効果的な広報にも取り組む。
収 支	指定管理者事業収益の一部を充当
実施の様子	

1) 内容及び受講者数

コース	講座名	開催月	申込者数
基礎 コース	①相模原を知る～地域活動への第一歩～	9月	8人
	②協働を学ぶ～地域活動の背景と意義～	10月	8人
	③様々な協働のかたち～地域活動の事例を学び、考える～	11月	9人
	④さがみはらプロモーション講座～地域のセールス方法を学ぶ～	12月	8人
	⑤さがみはらプロデュース講座～アイデアをかたちにする～	1月	7人
応用 コース	①団体運営のコツ～マネジメントから資金調達まで～	9月	5人
	②地域づくりのためのファシリテーション講座	10月	6人
	③団体PRの技術～情報リテラシーからブランド構築まで～	11月	2人
	④市民活動のための法律入門～市民と行政のミカタ～	12月	7人
	⑤自分も相手も大切にコミュニケーション	1月	5人
専門講座	①さがみはら学生まちづくり講座 (高校生・大学生におすすめ！)	2、3月	5人
	②さがみはら社会起業入門講座	2、3月	6人
	③さがみはら子育て支援講座(オンライン)	2、3月	13人
合 計			89人

コース	講座名	開催月	参加者数
公開講座	人生100年、楽しみを見つけましょう～地域活動は人のためならず～	8月1日	82人

2) コーディネーターズサークル交流会

新型コロナウイルス感染への対策により1回を中止した。

	開催日	講座名	参加者数
第1回	2021年 7月13日(日)	近況報告と意見交換	3人
第2回	9月	近況報告と意見交換	中止
第3回	11月27日(土)	自己紹介とグループディスカッション	11人
第4回	2022年 2月20日(日)	自己紹介と新旧メンバーによる意見交換	5人

(3) 地域発展事業

ア 学生映像制作

映像制作を通して地域への理解を深め、また、取材、企画提案、番組構成案作成、撮影等の一連の作業を通じて、協調性や他者との関係作りに必要な能力と態度を育成する。

実績	1) 学生情報局「さがまちバンバン」 2) CM・PR 動画制作	
期間/開催日	2021年10月～2022年3月	
作品数	1) 16作品 2) 3作品	
参加団体	1) 加盟大学の13学生団体 2) 加盟大学の3学生団体	
内容	<p>1) 地域の学生がTV番組制作を通して地域への理解を深めること、そして学生目線の地域映像情報に接した市民が地域の魅力を再認識することを目的とするプログラム。7大学16チームがエントリーし、感染予防対策を講じながら16作品を制作。制作された作品はさがまちHP及びYouTube等で配信した。3月に予定されていた優秀作品の選考、表彰を行う「さがまちバンバンアワード2021」は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け中止し、HP上での審査結果発表を行った。</p> <p>2) 地域団体からのオファーを受け、地域の学生がCM・PR動画を制作。1団体(相模原市看護の心普及啓発実行委員会)からのオファーがあり、計3本の動画作品を制作。制作された作品は地域コミュニティチャンネルや公共バスのデジタルサイネージ、各種インターネット等で放送されている。</p>	
自己評価	「リモート企画会議」「少人数での撮影」「自宅での編集」など各学生チームが感染予防対策を講じながらTV番組・CM制作を進めることが出来た。また参加した学生、監修した教員、地元地域ともに好評であったため「A」と評価する。	
課題と改善策	幅広い学生参画を目指すため、広報・プロモーション方法などを再検討し、参加者の拡大に努める。	
収支	会費収入の一部を充当	
実施の様子		

1) ① 学生情報局「さがまちバンバン」作品一覧

	作品タイトル	放送月	制作団体
1	がまちとバンバ	10月	女子美術大学
2	私なりの愛のかたち	12月	相模女子大学
3	Mask Communication	1月	青山学院大学

4	アンチ	1月	青山学院大学
5	静かな教室	2月	玉川大学
6	タマリーグ	2月	玉川大学
7	おひるだジョー	3月	相模女子大学
8	JDの食べ歩き in 町田	3月	多摩大学
9	Find Your Heart	4月	東京造形大学
10	ともだち	4月	東京造形大学
11	怪盗メロンと町田の秘密	4月	東京造形大学
12	DEATH GAME	4月	東京造形大学
13	ぼく。	5月	和光大学
14	プロジェクトW	5月	和光大学
15	七不思議調査団	5月	和光大学
16	授業、ついていってイイですか？	5月	和光大学

1) ② さがまちバンバンアワード2020 受賞作品

	賞タイトル	作品タイトル	制作団体
1	最優秀作品グランプリ	静かな教室	玉川大学
2	さがまち賞	「ぼく。」	和光大学
3	J:COM賞	アンチ	青山学院大学
4	MOVIX 橋本賞	DEATH GAME	東京造形大学

2) 相模原市「看護の心PR動画」作品一覧

	作品タイトル	制作団体
1	人の一生に寄り添う仕事篇	青山学院大学
2	インタビュー篇	相模女子大学
3	感謝と喜び篇	東京造形大学

イ 地域情報誌制作

学生による地域情報誌制作を通して地域への理解を深め、また情報誌を手にした市民が地域のイベントや活動を知り、地域の魅力を再認識することを目的して実施した。

実 績	
期 間	2021年6月～2022年3月
参 加 者 数	加盟大学の学生及び相模原・町田市在住の学生 33人
参 加 大 学	青山学院大学、桜美林大学、北里大学、相模女子大学、女子美術大学、女子美術大学、多摩大学、東京家政学院大学、日本女子大学、目白大学、明治学院大学

内 容	地域の学生が WEB 版地域情報誌「さがまち」27 号を約半年をかけて制作。企画会議、取材、記事制作などすべての活動をオンライン上で実施。完成した記事は公式 HP にて発信した。
自 己 評 価	オンラインによる情報誌制作を通して学生の社会適応能力の向上と情報発信による地域活性化に寄与した。掲載内容も内外から好評であったので「B」と評価する。
課題と改善策	より市民に身近な地域情報誌を目指すため、新たな配架場所や地域の協力者を獲得し、更なる地域活性化を目指す。
収 支	会費収入の一部を充当
実施の様子	

1) WEB 版 地域情報誌「さがまち」27 号の概要

配信媒体	さがまちコンソーシアム 公式 HP 内
記事タイトル	<ul style="list-style-type: none"> ・『初対面から推しでした！』つながりのつぎ ・生粋の相模原市民がレポートしてみた。 ・相模原・町田名スポット3選！ ・さがまち SDG s プロジェクト6 企画

ウ 地域情報発信

ポータルサイト「さがまち」による情報発信事業。

実 績	
期 間	2021 年 4 月～2022 年 3 月
HP アクセス数	43,000 件
更 新 数	78 件
内 容	ポータルサイト「さがまち HP」及び「公式フェイスブック」の運営を通して地域情報の発信。 また加盟機関が実施する生涯学習講座やイベントなどの情報発信をはじめ、加盟機関が実施する「オープンキャンパス情報」及び「オンライン学習情報」特設サイトを開設するなど情報発信に努めた。
自 己 評 価	公益目的事業に関わる情報発信に注力し、市民の生活に密着した情報を発信した。目標であるアクセス数が前年度より約 2 倍の増加があった一方、更新数が目標を下回ったので「B」と評価する。
課題と改善策	SNS の連動など時代のニーズ、シーズに沿った情報発信を心掛ける。
収 支	会費収入の一部を充当
	

エ 市民・大学協働フェスタ

地域・市民団体と大学が協働したまちづくりイベントを開催。

実 績		1) 市民・大学協働まちづくりフェスタ	2) ユニコムサミット
開 催 日		1) 2021年10月1日～10月31日（展示形式） 2) 2021年5月9日（一部オンライン）	
参 加 者 数		1) 参加団体数：31団体、見学者120人（カウントできた者のみ） 2) 参加者：29人	
内 容		1) 自治会・商店街・公民館の地域活動、市民団体・NPOの市民活動、大学の生涯学習講座や研究成果、学生の地域連携活動、企業の地域貢献活動の取組を展示する。 2) 地域・市民活動を実践する団体・個人を対象に、成功事例や課題、経験者にしかわからない隠れた問題などを紹介し、その解決方法を参加者が共有する。	
自 己 評 価		1) コロナ禍により大勢の参加者が1日に集中して開催することが難しいことから、「第9回ユニコムプラザさがみはら まちづくりフェスタ交流展示会～今を生き抜く地域と大学の挑戦～」として、およそ1カ月間の展示会を開催した。 2) テーマ：こども・若者がコロナ禍で生き抜くために 以上、フェスタの開催とサミットの準備を通して関連する団体の情報共有ができたので「C※」と評価する。	
課題と改善策		1)、2) 共に来年度の開催に向けて日頃の活動を活発に行う。	
収 支		指定管理者事業収益の一部を充当	
実施の様子		フェスタ  チラシは学生が制作	サミット  チラシは学生が制作

オ 市民・大学交流会

市民と大学が地域課題の解決や地域の活性化を目的とした交流、研究、対話等を行う機会を提供。

実 績	
開 催 期 間	2021年5月～2022年2月
開 催 数	4回（新型コロナウイルス感染拡大の影響と臨時休館により2回中止）
参 加 者 数	54人
内 容	個人・団体が大学と交流する場の提供。「地域連携の考え方」、「大学の得意分野」「協力を要請したい分野」などの具体的なテーマを設定し、市民と大学との連携のきっかけを創出する。
自 己 評 価	具体的テーマに基づく4回の市民・大学交流会を開催し、活発な意見交換を行ったが、参加者数が目標値の半分となったので「C※」と評価する。
課題と改善策	・交流会終了後、連携の有無と内容について追跡調査を行っており、連携に

	繋がる案件が出てきた。引き続きフォローしていく。 ・より幅広い世代に参加していただけるよう、テーマを工夫している。
収 支	指定管理者事業収益の一部を充当
実施の様子	  

	開催日	テーマ	参加者数 (申込)
1	5月26日(水)	感染症の歴史 新興感染症とはなにか	10人(10人)
2	8月29日(日)	“ドクターアキヤマ”と不思議で楽しい科学実験を楽しもう!!	中止(15人)
3	9月22日(水)	クラゲを通して見た海の世界!	中止(10人)
4	10月16日(土)	持続可能なライフスタイルから考えるSDGs	19人(25人)
5	11月26日(金)	団地再生を考える	14人(16人)
6	2月13日(日)	カラフルペーパーで作ろう!LEDで光るかわいいお雛さま	11人(15人)

カ 市民と大学との橋渡し

実 績	
期 間	通年
内 容	①シェアードオフィス利用者への支援 利用者交流会：12回開催 ②センター利用者への支援 相談件数：138件 ③市民と大学との連携実績36件
自 己 評 価	①利用者交流会を通じて活動状況の把握とアドバイスができた。 ②受身型の相談から提案型の相談が増え、LINEなども活用している。 ③年間を通して多種多様な橋渡しを実現し、その後もフォローしており、目標件数を大きく上回った。 以上を踏まえて「S」と評価する。
課題と改善策	テーマを決め、より実践的な自主事業を行うことでアドバイス、提案、橋渡しを継続的に実現する。
収 支	指定管理者事業収益の一部を充当
実施の様子	大学との連携 産学連携の 成果発表 (多摩美術大学)  小学生のレポート へのアドバイス (和光大学) 

キ 情報誌発行

センター事業やセンターに係わる様々な団体の取り組みや連携に関する情報を紹介する情報誌を定期的に発行。

実績	
期間	通年
発行回数	12回
発行部数	2,500部
内容	A5版4ページ、カラー、相模原市内の約200か所に配布 センター事業の紹介、大学の活動紹介、シェアードオフィス利用者の活動紹介など、様々な取り組みや市民と大学との連携に関する有効な情報を紹介した。
自己評価	施設の設置主旨に鑑み、「市民と大学との連携」「施設でのイベント」について、タイムリーに情報発信できたので「A」と評価する。
課題と改善策	企業の地域連携活動としてのイベントにも注目していく。
収支	指定管理者事業収益の一部を充当

ク 団体登録

実績	
期間	通年
登録団体数	43団体
内容	定期的にセンターを利用する団体・フェスタへの出展者に対し登録を促す。 橋渡し案件として関わった団体に登録を促す。 新規3団体であった
自己評価	登録数は、昨年度40団体から43団体に増加したので「A」と評価する。
課題と改善策	次年度もフェスタへの出展者に対して登録を促すなど、増加に努める。
収支	指定管理者事業収益の一部を充当

ケ ホームページ運営

市民や大学、企業・団体が行う多彩な活動を紹介する。センター事業をはじめ、センターと団体との共同事業、利用団体（利用者）が行う事業、その他の地域情報を幅広く紹介する。

実績	
期間	通年
HPアクセス数	224,427件
更新	毎日
内容	例年通り活発に掲載・更新を行ったが、臨時休館に伴う施設利用の中止、イベントの中止などが影響し目標値の4分の3程度に留まった。
自己評価	年間を通してアクセス数が戻っていないので「C※」と評価する。
課題と改善策	より効果的な発信ができるよう、アクセス状況の分析を行う。
収支	指定管理者事業収益の一部を充当

4 収益事業

センターの施設等の管理運営事業（公益目的事業の推進に寄与する事業）

一般市民などがセンターの施設等を利用するに当たり、相模原市条例に定める適正な料金のもとにサービスを提供し、利用者の便宜を図ることに努めた。

- (1) シェアードオフィス運営支援（NPO や企業などが市民活動、地域貢献活動の拠点として利用するシェアードオフィス（共用貸事務所）の利用者有料支援）
- (2) 会議室等の貸し出し（セミナールーム、ミーティングルーム、AV スタジオ、実習室、情報コーナー、マルチスペースの有料貸し出し）
- (3) 備品等の貸し出し（機械、映像機材、各種ソフト、備品の有料貸し出し）
- (4) 利用者サービス（コピーサービス（有料）、無線 LAN（Wifi-Spot）（無料））

5 管理運営

(1) 総会・理事会

ア 社員総会

	開催日	開催場所	内容
定時 社員総会	2021（令和3）年 6月22日	ユニコムプラザ さがみはら セミナールーム2	<審議事項> (1)理事の選任について (2)名誉会員候補者について (2)2020（令和2）年度収支決算(案)について <報告事項> ・会員の入会について ・会員の退会について ・2020（令和2）年度事業報告について ・2021（令和3）年度事業計画について ・2021（令和3）年度収支予算について ・諸規程の改定について ・2021年度事業・組織体系について ・さがまち本店の公益目的事業の実施状況について ・ユニコムプラザさがみはらの運営状況について

イ 理事会

	開催日	開催場所	内容
第72回 理事会 (定例)	2021（令和3）年 6月7日	相模女子大学 会議室2	<審議事項> (1)補充の理事候補者について (2)人事について (3)2020年度事業報告（案）について (4)2020年度収支決算（案）について (5)社員総会の議案について <報告事項> ・退会について ・各委員会開催結果について ・予算の進捗状況について
第73回 理事会 (臨時)	2021（令和3）年 6月22日	ユニコムプラザ さがみはら マルチスペース	<審議事項> (1)人事について (2)定時社員総会の議案及び議事進行について
第74回 理事会 (臨時)	2021（令和3）年 6月22日	ユニコムプラザ さがみはら マルチスペース	<審議事項> (1)会長（代表理事）の選定について
第75回 理事会 (臨時)	2021（令和3）年 9月14日	WEB会議システム（ZOOMミーティング）による	<審議事項> (1)法人運営の方針について <報告事項> ・相模原市立市民・大学交流センターの第4期指定管理者指定申請について ・相模原市立市民・大学交流センターの管理運営に関するモニタリングについて ・各委員会開催結果について ・予算の進捗状況と今年度の収支予測について ・業務執行状況について
第76回 理事会 (臨時)	2021（令和3）年 12月14日	相模女子大学 会議室2	<審議事項> (1)賛助会員の新規入会について (2)人事について

			(3)諸規程の改正について <報告事項> ・各委員会開催結果について ・予算の進捗状況について ・法人運営の方針に係るワーキンググループミーティング中間報告について ・相模原市立市民・大学交流センターの第4期指定管理者の指定について
第77回 理事会 (定例)	2022(令和 4)年 3月8日	相模女子大学 茜館催事場	<審議事項> (1)役員の選任に関わる推薦手続きについて (2)諸規定の制定と改廃について (3)人事について (4)職員の給与適用について (5)2022年度事業・組織体系(案)について (6)2022年度事業計画(案)について (7)2022年度収支予算(案)について (8)役員賠償責任保険への加入について <報告事項> ・各委員会開催結果について ・予算の進捗状況について ・業務執行状況について ・第4期相模原市立市民・大学交流センター指定管理者の指定について ・職員の表彰について ・運営委員会・プロジェクト事業委員会委員の任期満了に伴う推薦手続きについて ・2022年度社員総会・理事会・運営委員会の開催日程について

(2) 委員会

ア 運営委員会

	開催日	開催場所	内容
第1回	2021(令和 3)年 5月11日	WEB 会議システム (Zoom) 利用 による開催	<報告事項> ・新規入会について ・人事について ・2021年度事業計画について ・2021年度収支予算について ・法人の運営状況について ・業務執行状況について <報告事項> ・さがまちコンソーシアムホームページ情報募集 について ・さがまちリーフレット「あなたにさがまち」に ついて ・事業の実施について ・学生活動プログラムについて ・相模原市立市民・大学交流センター事業について ・社員総会・運営委員会の開催日程について

第2回	2021（令和3）年 10月12日	WEB 会議システム（Zoom）利用による開催	<報告事項> ・相模原市立市民・大学交流センターの第4期指定管理者指定申請について ・相模原市立市民・大学交流センターの管理運営に関するモニタリング結果について ・法人の運営状況について ・業務執行状況について <報告事項> ・2021年度 さがまち本店事業について ・2021年度 ユニコムプラザさがみはらの事業について
-----	----------------------	-------------------------	--

イ プロジェクト事業委員会

①さがまちカレッジプロジェクト

	開催日	開催場所	内容
第1回	2021年4月23日	相模女子大学 茜館 催事場（Zoom ミーティング併用）	・2021（令和3）年度さがまちカレッジについて ・2021（令和3）年度さがまちカレッジⅡ期講座について
第2回	2021年7月19日	相模女子大学 茜館 催事場	・2021年度さがまちカレッジⅢ期講座について ・動画配信型講座について ・2022（令和4）年度さがまちカレッジ開催スケジュールについて
第3回	2021年10月19日	Zoom ミーティングによる	・2021（令和3）年度さがまちカレッジⅣ期について ・動画配信型講座について ・2022（令和4）年度さがまちカレッジについて
第4回	2022年2月15日	Zoom ミーティングによる	・2022（令和4）年度さがまちカレッジ企画提案について ・2022（令和4）年度さがまちカレッジⅠ期について

②キャリア支援プロジェクト

開催実績なし

附属明細書

事業における重要な事項は2021（令和3）年度事業報告書に記載されており、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」は、特にないため、当年度の附属明細書は作成しない。